●コシグロペリカン

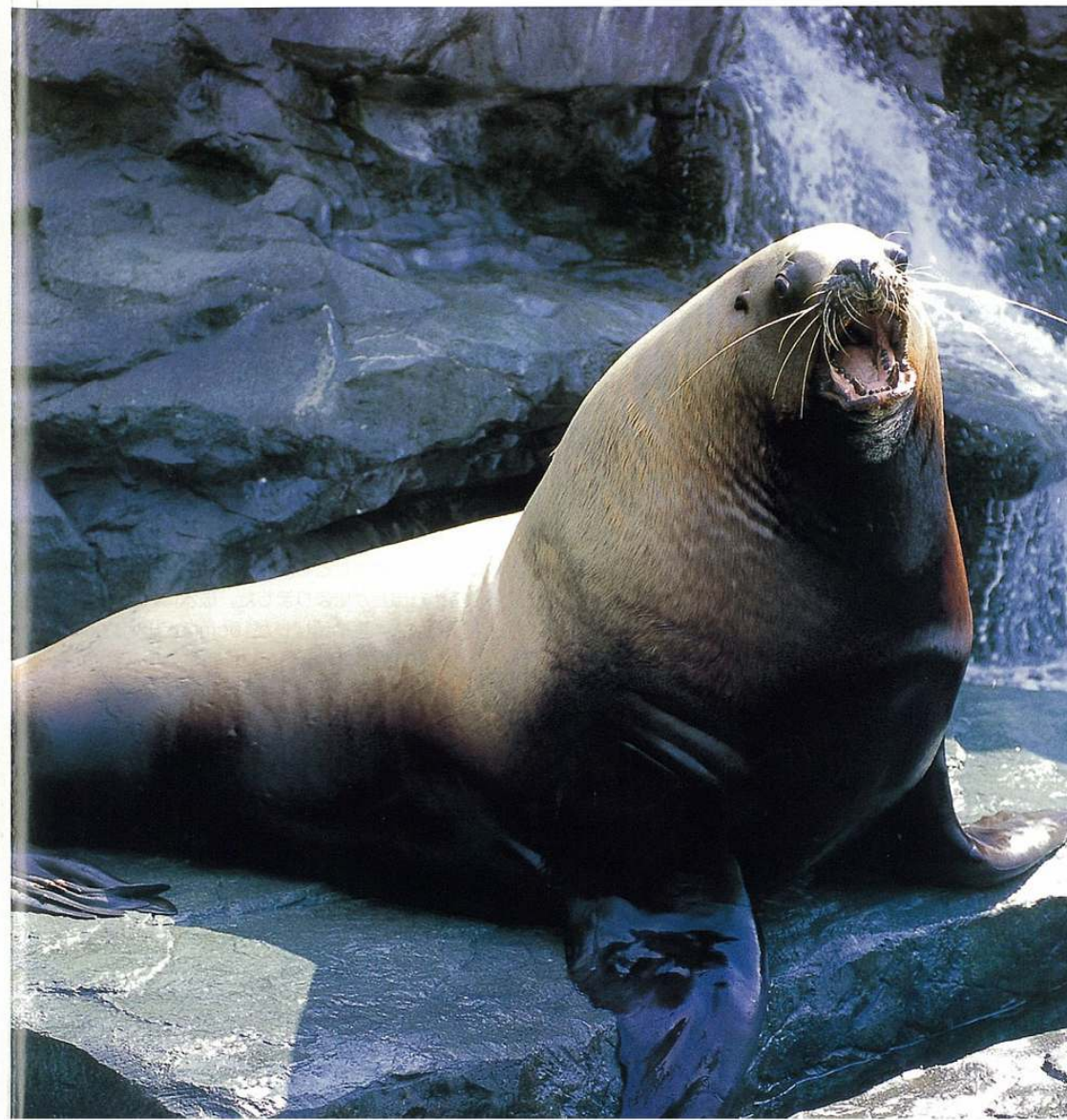
オーシャンスタジアムの入口にあるペリカンの池には2種類のペリカンが飼育されています。そのうちの白と黒のツートンカラーのペリカンがコシグロペリカンです。別名オーストラリアペリカンとも呼ばれ、オーストラリアからニューギニアにかけて生息し、日本では当館でしか見ることのできない大変貴重な種類です。名前どおりの羽の色と、ペリカン独特の、くちばしの下の大きな袋も目立っていますが、さらに目をひくのは愛嬌のある顔です。目のまわりにクリーム色のアイシャドウをつけたような丸いふちどりがあるために、お客様から「ずいぶんと目の大きな鳥ですね」と驚かれることもしばしばです。同じペリカンでも同居しているモモイロペリカンとは性格がかなり異なり、園内散歩の時には集団で行儀よく歩くモモイロペリカンに対し、群れからはみ出して単独であちこち歩きまわったり、長いくちばしでお客様のパンフレットを取ろうとしたりと、コシグロペリカンからは目が離せません。また、エサを与えるときにも、他のペリカンのエサを横からくちばしを出してかすめ取ったりと、そのいたずらぶりには係員もちょっとばかり困っています。こんなコシグロペリカンも当館へやってきて5年目となり、特定のペアもできていることから2世誕生が楽しみです。（関）

▲ゴシグロペリカン *Pelecanus conspicillatus*

●ゴマモンガラ

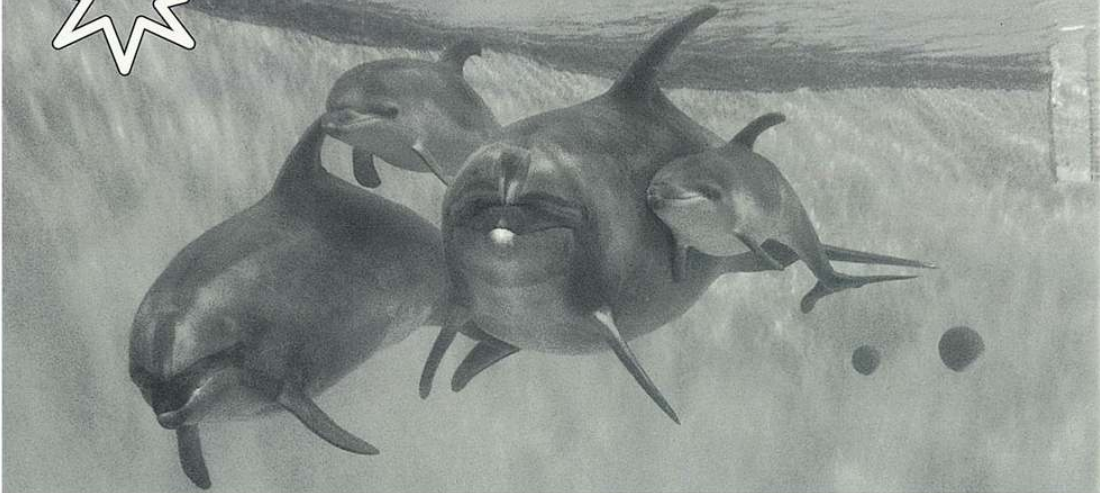
ゴマモンガラは全長50cmほどになるモンガラカワハギの仲間で、暖かい海にすんでいます。他のモンガラカワハギと同様に、背中には大きなトゲをもつ背ビレがあり、普段は胸ビレでバランスをとりながら背ビレと尻ビレを使って泳ぎます。海ではカニや貝類などを丈夫なあごでかみ砕いて食べます。鴨川シーワールドではイカ・ムキエビ・アサリなどを与えていますが、餌の時間になると飼育係の前におねだりに来るほど、とても人に慣れやすい性格です。また体をこすってもらうのが大好き？なところもあり、係員が水槽に潜ると必ず目の前に来ます。手で体やエラあなの中を軽くこすると、とても気持ちよさそうな顔？をしています。ゴマモンガラは普段はおとなしいのですが、縄張り性が強く、別のモンガラカワハギの仲間を同じ水槽に入れると大げんかをすることがあります。同じ仲間のイソモンガラを入れた事がありましたが、自分の体の倍くらいの大きさのイソモンガラにけんかを仕掛けてしまい、ダイバーが入って引き離した事もありました。

現在はエコ・アクアロームでお客様に愛嬌を振りまいていますが、来年7月にオープンするトロピカルアイランドにスターの一員として引っ越す予定です。サンゴ礁の海を再現した新水槽でのゴマモンガラはさらに魅力的に見えることでしょう。（中坪）

▲ゴマモンガラ *Balistoides viridescens*

さかまた No.54
（禁無断転載）
編集・発行 鴨川シーワールド
〒296-0041 千葉県鴨川市東町 1464－18
☎(0470) 92－2121
http://www.mitsuikanko.co.jp
発行日 平成11年12月

さかまた

鴨川シーワールド NO.54

ロッキーワールド「イルカの海」でバンドウイルカが出産

▲2組の親子での遊泳

昨年7月にオープンした「ロッキーワールド」にある「イルカの海」は、イルカの繁殖や治療などを目的として造られた施設です。地下には水中を泳ぎまわるイルカを間近で観察することができる観覧窓も設けられています。この「イルカの海」で、8月と10月に相次いでバンドウイルカが出産しました。

出産したバンドウイルカは、1990年に搬入され過去3回の出産経験を持つ「ノーマ」と、1972年に搬入され、現在バンドウイルカの飼育記録日本一を更新中で、6回の経験を持つ「スリム」です。イルカの妊娠は、オスとの交尾行動とその後の血液中のホルモン値を調べることによって確認されます。妊娠期間はおよそ1年間で、最近では出産が近づくと体温が低下することもわかり、出産日を予想できるようになりました。「ノーマ」・「スリム」ともに通常は36℃台の体温が35℃台に下がったこと、さらに下腹部にある乳裂（乳首がかくされている左右一対の裂け目）の間の幅が広がったことから、出産が迫っていることがわかったため、飼育係による24時間体制での観察を行い、出産にそなえることができました。

ノーマの出産

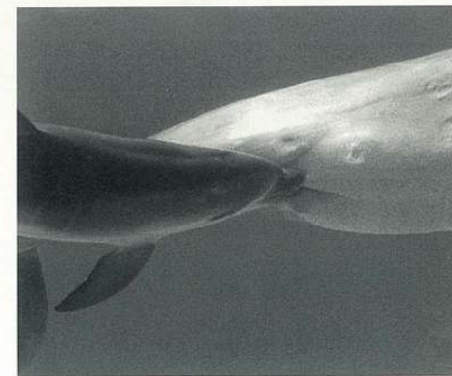
「ノーマ」は8月22日午前10時31分にメスの赤ちゃんを出産しました。出産が近づくと、体を大きく内側に「く」の字に曲げたり、逆に大きく反る動作を、ガラス越しに目の前で観察することができました。その後「ノーマ」はゆっくりと泳いでいましたが、出産の1時間程前になると急に速く泳ぎ始めるようになりました。観察を続けていくうちに生殖孔から茶色がかった液が出ているのに気付き、破水だとわかりました。いよいよ待ちに待った出産が始まりました。破水に続いて生殖孔から小さな黒い尾ビレが10cmほど出始めると、「ノーマ」は速く泳いだり、急に何もなかったように静止し、またその場で力一杯力んだりしてがんばっていました。徐々に出てくる赤ちゃんイルカの尾ビレをよく見てみると少しずつ回転していることに気付きました。一回転するとヘソの緒が体に巻きついてしまうおそれがあるため赤ちゃんの尾ビレの動きから目が離せませんでした。出産が始まって30分ほどすると赤ちゃんの体の3分の1が出ました。それから10分後ようやく赤ちゃんの背ビレが見えたと思った瞬間、目の前に真っ赤な血と一緒に小さなイルカの赤ちゃんが現れました。この出産の様子を見守っていた運の良いお客様からは、大きな拍手と歓声がわき起こりました。生まれるとすぐに、泳ぎもおぼつかない赤ちゃんは、形がまだしっかりしないヨレヨレの尾ビレをあおって、水面に向かい初呼吸をしました。そして、すぐに母親「ノーマ」がぴったり寄り添い泳ぎ始め、3時間13分後には「ノーマ」のお腹の下に入りお乳を吸い始めました。初授乳の58分後には後産も排泄されて無事お産が終わり、夜中から見守っていた係員一同はほっと一安心しました。

▲イルカの海全景（手前のプールで出産）

▲出産直前のノーマ（赤ちゃんイルカの腹側が見える）

▲生まれたばかりの「ノーマ」の赤ちゃん　このあと初呼吸

スリムの出産

そして「ノーマ」に遅れること1ヶ月、「スリム」は10月1日午後9時3分に無事オスの赤ちゃんを出産しました。「ノーマ」と同じように体を「く」の字に曲げる動作が見られた後、出産が始まるとプールの中で逆立ちをして力むという行動をくり返しました。この動作は「ノーマ」には見られなかったので、出産時の行動は個体によって異なることがわかりました。また、「スリム」の赤ちゃんは生まれてからすぐにプールの壁に衝突してくちばしの先をすりむいてしまい、うまくお乳が飲めるか心配するというハプニングもありましたが出産4時間52分後には授乳が認められました。

▲授乳シーンも間近で

元気に育て子供たち

頼りなかった子イルカ達ですが、現在では、ノーマの子は4ヶ月、スリムの子は3ヶ月になり、子供同士で遊んだりジャンプをするなど元気一杯です。この子イルカ達が元気に育ち、鴨川シーワールドで生まれた「オリノ」や「カリス」たちとともにパフォーマンスに参加できる日が来ることを係員一同願っています。

（山田か、勝俣浩）

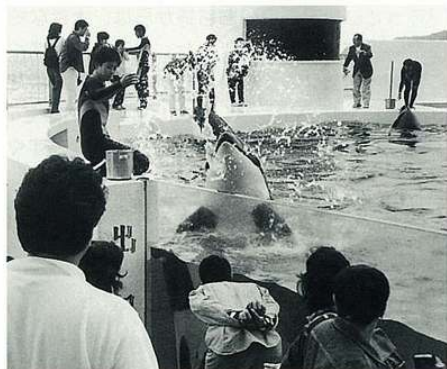
トピックス

子シャチの「ラビー」パフォーマンスデビュー

▲「ラビー」、「ステラ」、「ビンゴ」そろってランディング

今年7月20日に子シャチの「ラビー」が、父親「ビンゴ」、母親「ステラ」にサポートしてもらいながらパフォーマンスデビューをしました。

デビュー当日、「ラビー」はパフォーマンスが始まる前から覚えたばかりのランディングでポーズを決めたりはりきっているように見えましたが、いざパフォーマンスが始まると、母親に甘えてみたり、父親の動作をじゃましてみたりとさっそくやんちゃぶりを発揮して私たちトレーナーを困らせました。しかしお客様の目には成長した元気な「ラビー」の姿がかわいらしく見えたのか、盛んな拍手をいただきました。パフォーマンスが終わると遊び好きな「ラビー」はお客様のところへ寄って行き、ガラス越しに愛嬌を振りまいていました。すっかり人気者となった「ラビー」と記念写真を撮っている多くのお客様の笑顔を見ていると私たちトレーナーも母親になった気分になりとてもうれしい一日でした。

▲水平ジャンプもこのとおり

▲ガラス越しにお客様と遊ぶ「ラビー」

生後1年10カ月の「ラビー」は、現在、一頭での基本的なトレーニングが始まっていますが、これからもトレーナーと一緒に頑張りますので応援して下さい。

（奥田）

特別展示「海の宝石、クラゲ展」

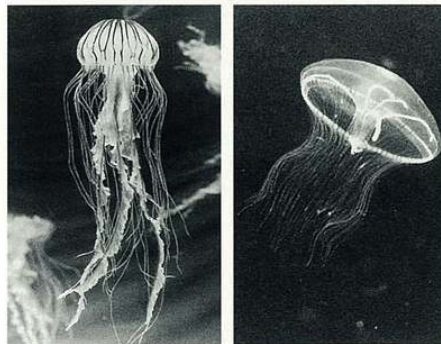
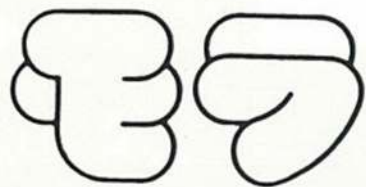
▲正面はミズクラゲ

平成11年、7月20日より10月下旬まで、エコアクアロームの一角で、夏休みの特別展示「不思議な輝きー海の宝石、クラゲ」を開催しました。クラゲは海水浴場などでよく見られ、人を刺すイメージが強く、嫌われ者にされることの多い動物です。しかし、特別展ではミズクラゲやアカクラゲなど5種類約300点のクラゲがライトアップされて優雅に漂う光景は幻想的でたいへん美しく、お客様からも「きれい」「かわいい」「不思議」といった感嘆の声が多く聞かれました。また、コブエイレネクラゲのポリプを顕微鏡で観察したり、ウリクラゲがカブトクラゲを捕食する様子をビデオで見ることのできるコーナーでは、クラゲについて新たな発見をされるお客様も大勢いらっしゃいました。クラゲは体の中に気泡が入ったり、強い水流があったりするとたちまち体がこわれてしまうデリケートな生き物で、水槽の管理には大変気を使いました。また今年は例年よりも海水温が高かったためかクラゲが思うように採集できず飼育係をやきもきさせたことがありましたが、そんな苦労とは反対に水槽の中のクラゲたちはのんびりと優雅に漂っていました。

▲アカクラゲ

▲コブエイレネクラゲ

▲クラゲのポリプを観察中「新しい発見あったかな？」

（桐畑）

●ドルフィンドリームクラブ結成

今年4月、鴨川シーワールドに新しい会員組織「ドルフィンドリームクラブ」が誕生しました。これまでの「動物友の会」同様、海の動物たちとの出会いやふれあいを大切にしたいという人たちのための組織ですが、「ときめき体験の割引・優先予約」などの特典を増やして、魅力ある内容になっています。今後、メンバー間の交流の場を設けるなど、さらに内容を充実していく予定です。会員はジュニア、パーソナル、ファミリーの3つに分かれていて、年会費も良心的な金額になっていますので、パンフレットまたはホームページをご覧の上、ぜひご家族やお友達にも紹介して下さい。

（津谷）

●トロピカルアイランド、生物収集開始

トロピカルワールドの2000年7月オープンを目指し、生物収集が始まりました。サンゴ礁魚類を主に熱帯性海水魚の収集は、海外ではフィリピンやインドネシアから、国内では沖縄・九州・四国・小笠原などの水族館や漁業協同組合等の協力を得て行われています。現在、各地の定置網で乗船採集を行っていて、その一部を年内に鴨川へ輸送する予定です。また、地元鴨川では、秋になっても黒潮の接近による高水温が続いており、定置網では南方系の魚類が多く漁獲されています。定置網や釣りなどにより、毎日のように搬入される色鮮やかな魚類の世話にスタッフも大忙しの毎日を送っています。遠い南の海からやってくる魚たちの公開まであと8ヶ月です。御期待下さい。

（大澤）

●イルカのローマンライド

この夏（7月20日～8月31日）、イルカパフォーマンスでは、2頭のイルカの背中に乗って水面を滑る水上スキー「ローマンライド」を5年ぶりに公開しました。高速で泳ぐイルカの背中にバランス良く乗るこの演技は難易度が高く、イルカもさることながら、トレーナー自身の技術を必要とします。2ヶ月間の訓練のすえ、むかえた公開初日、不安と緊張のなかイルカと息をあわせ無事プールを2周することが出来ました。その後ちょっとした失敗はありましたが、この夏のイルカパフォーマンスは、私たちトレーナーにとってはイルカと演じたとても熱い夏でした。

（井上聰）

●「夜の水族館祭り」開催

今年の夏イベントの目玉として8月12日から16日まで「夜の水族館祭り」が開催されました。期間中は、夜10時まで開園し様々な催し物が行われましたが、中でも一番人気はライトで浮かび上がる体と水しぶきが幻想的なイルカやシャチのパフォーマンスで、お客様の歓声が絶えませんでした。その他にも園内センターポートで開かれた「お祭り広場」では、屋台の他シャチやセイウチのオリジナルキャラクターの着ぐるみも登場し、子供達も大喜びでした。また、マリンシアターでは、ベルーガの捕獲記録映画や新施設ロッキーワールドへの動物のお引越しの様子などが上映されるなど、お客様も昼間と違った夜のシーワールドを満喫していました。

（佐伯）